



下村太郎後援会 会長メッセージ

後援会長 弘田直樹
(弘田脳神経外科院長)

市議会議員としての経験は下村太郎を一層大きくしたようです。柳井の現状を語る時の彼の憂いや希望はよりの確で現実的になり、そして将来に向けてのビジョンはより豊かで建設的なものになってきています。もとより彼の故郷柳井を思う気持ちは熱いままで、幼少時のこのまちの原風景の印象は私たち年配者の共感を呼び覚まし、さらにと上を目指す情熱は若い世代の心を惹き牽引していくものでしょう。彼の明晰な判断力と実行力に期待しています。



声を直接届ける!

下村と語ろうかい 2024スケジュール

※情報は、1月15日現在 変更となる場合がございます

余田公民館 | 4月13日⑤
10:00~11:30

中央公民館 | 4月13日⑤
15:00~16:30

伊陸公民館 | 5月11日⑤
10:00~11:30

日積公民館 | 5月11日⑤
15:00~16:30

阿月公民館 | 5月18日⑤
10:00~11:30

大島公民館 | 5月18日⑤
15:00~16:30

SHIMOMURA NEWS

Vol.02

2024.02



下村太郎

柳井市議会議員

議会報告



LINE 公式アカウント

皆さまの声を 市政に届けます。

下村太郎の
LINE公式
アカウントにぜひ、
ご登録ください

ごあいさつ 好循環のまちづくりは、ひとづくりです

ふるさと柳井に戻って4年。多くの市民の皆様と対話し、市政に関わる中で、柳井市政に「市民の声を聞く姿勢」が必要と強く感じています。市民の皆様が何を望み、市政がその声に応えているのかについて真摯に受け止め、検証していきます。

柳井市の人口は3万人を切り、国から全域が「過疎地域」に指定されました。

現市政下で出生数は半数以下となり、減少率は全国平均や山口県平均を大きく下回っています。

柳井に必要なのは、若い世代が定着し、高齢者を含めたすべての市民が社会で活躍し続ける環境をつくり、守ることです。



人口増加や賑わい創出、財源確保により、高齢者をお支えする人手や施策も豊富になり、更なる定住者の増加や企業立地が見込めます。高齢者の知見を活かしながら柳井でこの「好循環のまちづくり(若者まんなかまちづくり)」を実現します。市内就職・起業しやすい環境、高度なインフラ、定住促進策、まちを楽しむ施策、充実した教育環境を整備

することで、若者・次世代を惹きつけ、育てる「ひとづくり」が長期的な柳井の活力と財政健全化に繋がります。「日本一のふるさとづくり」を一緒に進めましょう!

柳井市議会議員 下村太郎

下村太郎の活動を発信中!

皆様がお使いのSNSツールでぜひフォロー、拡散をお願いします。

Facebook: shimomura.taro

Instagram: shimomura_taro_



#柳井まつり
#花傘踊り
#伝統を次の世代に



#金魚ちょうちん祭り
#柳井商工会議所青年部
#夏休みのお祭り



#柳井市議会
#政治が変わればまちが変わる
#下村と語ろうかい



#平郡診療所の視察
#平郡の景色
#心から敬意

下村太郎プロフィール

- 1982年12月 周東総合病院にて生まれる / 柳井幼稚園、柳井小学校、柳井中学校、徳山高等学校 理数科 卒業
- 2007年 3月 中央大学 法学部 政治学科卒業
- 2007年 4月 大和証券本社にて勤務(〜'20年2月)投資銀行部門にて地方自治体の資金調達や、企業の合併・資金調達のアドバイザー業務に7年、本社の企画・人事部門にて人材の採用・育成・評価・企画に6年従事
- 2021年 2月 柳井市長選挙に立候補(現職に282票差で惜敗)
- 2021年 3月 柳井市で起業し、市内外の企業の採用支援を行う
- 2021年12月 柳井市議会議員選挙に立候補(歴代最多得票数(3,658票)でトップ当選)

これまでの活動など

- 柳井市議会議員
- 柳井小学校PTA会長
- 柳井商工会議所青年部会員
- 柳井青年会議所会員
- 柳井市獺友会会員
- 柳井市ふるさと観光大使
- 中央大学学生会(OB・OG会) 辞達クラブ支部理事

趣味: 卓球 / 座右の銘: 信なくば立たず 政治は国民の信頼がなければ成り立たない / 家族: 妻、長女、次女

【お問い合わせ】
下村太郎後援会
〒742-0001柳井市姫田1番2号
TEL.0820-22-0354

柳井を一新。
5つの基本方針と
18の基本政策はこちらから



shimomura-taro.com
下村太郎 検索



2023年3月 一般質問

質問1 水道料金について

柳井市の水道料金は2023年12月検針分より**県内で最も高くなる見込み**です。今後の水道事業整備の方向性について伺います。



市の回答

柳井地域の水道事業は、弥栄ダム(広島県境)からの遠距離導水による高額な水道料金に加え、人口減少による水需要の低迷、老朽施設や管路の増加による更新費用の増加などにより経営環境は厳しくなっている。令和7年4月1日を目標に柳井地域広域水道企業団に経営統合を目指している。将来的には山口県と連携し、より広範囲な枠組みによる事業統合を目指す。

質問2 保育環境の整備について

柳井市内の**幼稚園が2024年4月より1園**になります。保育所への入所希望者の状況と市街地の保育環境整備の方向性を伺います。

市の回答

市街地を柳井地区と捉えると、令和5年度当初の保育所入所児童数は415人を予定している。利用定員は、400人で15人ほど超過する見込みであるが、認可定員や利用定員、弾力的運用などにより、既存施設で対応可能である。環境整備は、市街地に特定せず市全域を一つの教育保育区域として提供する。

質問3 職員が働きやすい環境整備について

ハラスメント行為から市職員の人権を保護する取り組みの内容・頻度について伺います。

市の回答

本市では2022年4月に「柳井市職員のハラスメント防止等に関する規程」を整備し、職員それぞれの責務や相談窓口、対策委員会の設置などについて定めている。また、毎年、全職員を対象とした人権研修においてハラスメントに関する研修を行っている。



下村の意見

市職員の皆様がより一層働きやすい、**風通しの良い職場環境を整備することは市民の皆様への行政サービスの向上に欠かせません**。前職での経験を活かして、総務部(人事担当部署)による定期面談や配属部署・職場環境に対する定期的なアンケートの実施など、市職員の職場環境向上のため実効力のある施策を実施するよう今後も市に働きかけます。

2023年6月 一般質問

質問1 地域高規格道路について

地域高規格道路としての柳井玖珂道路(玖珂ICと柳井市街を結ぶ約13kmの高速道路)の整備は、**救急医療、企業の発展・誘致、観光、市民生活の向上等の観点で大きな波及効果**をもたらします。実現に向けた取り組みについて伺います。



市の回答

山陽自動車道等の高速交通体系へのアクセスは、主要地方道柳井玖珂線が大きな役割を担っているが、急峻な峠区間等の課題がある。今後とも柳井玖珂間の道路の高規格化については、山口県東部高速交通体系整備促進協議会の構成市町と一体となり、引き続き粘り強く要望する。

下村の意見

柳井玖珂道路は、柳井市長が会長となる**山口県東部高速交通体系整備促進協議会(以下、協議会)**が国や県に**要望する形で実現が可能**となります。しかしながら、2010年1月27日の協議会の冒頭で井原市長が「費用対効果という視点から計画を見直したい」と発言され、総事業費約250億円の柳井玖珂道路の建設が事実上凍結されることになりました。予算の55%は国、45%が県、柳井市の負担はゼロでした。その後、2013年7月2日の協議会にて井原市長が方針を転換され、以降毎年、柳井玖珂道路の実現に向けて国や県に要望されていますが実現に至っておりません。柳井玖珂道路は現市政と同じく必ず実現すべき道路と私も考えます。これまで協議会の皆様が積み上げてきた実績をもとに、**協議会の枠組みの中で新しい施策を進めるべき**と思います。

質問2

私道の土地所有権の安定化について

私道である**団地内道路の土地所有権を柳井市へ譲渡し、通行の安定化**を求めます。譲渡手続きに関する要綱整備について伺います。

市の回答

要綱の整備については、それぞれ異なった状況、様々な地元事情がある中で、市道認定基準などとの整合性を図る必要があり、引き続き慎重に検討を重ねていきたい。

質問3

公共施設のトイレ整備について

公共施設のトイレの洋式化と汲み取り式トイレの簡易水洗化は、**住民の福祉と公衆衛生の観点で重要**と考えられます。今後の整備方針について伺います。

市の回答

市有施設を市民の皆様様に快適に利用して頂けるよう、引き続き、施設ごとに利用状況や市民のニーズ等を踏まえて検討し、大規模なものは実施計画に計上した上で事業を実施していく。

2023年9月 一般質問

質問1

防災整備について

自主防災組織と今後の**防災整備の方向性**について伺います。

市の回答

自主防災組織の活動に対し、各種の補助制度を設けている。防災備蓄品については、「柳井市災害時備蓄の基本方針」に基づき、随時購入しており、今後も避難場所等に計画的に非常食や保存水等を配備していく。

質問2

柳井駅南口改札の実現について

JR富海駅改札口など**他事例を参考にした低コストでの柳井駅南口改札の実現**について伺います。

市の回答

柳井駅は、地域の拠点駅として一定の乗降客数があり、入退場可能な自動改札機を複数台設置する必要がある。また、ロータリーなど周辺環境整備も必要である。柳井駅南口改札の整備については、引き続き将来的な課題としている。

下村の意見

JR富海駅の仮設改札は基礎工事等すべて含めて約1,000万円で設置しており、年間の運営費は約50万円です。JR西日本にも種々確認しており、同様の形態で常設にすることに問題はなく、柳井駅南口改札も十分実現可能と考えております。現在の改札口に自動改札機は2台です。乗降者が分散されることを考えれば、南口改札は1台でも可能であり、**ロータリーや高架などの整備に巨額な税金を使わずとも現在のカリヨン広場や既存駐車場の活用で十分乗降者の利便性は確保できる**と考えます。

質問3

年間を通じた金魚ちょうちんの点灯と花火の打ち上げについて

年間を通じた金魚ちょうちん点灯とお祭りに合わせた**花火の打ち上げ**など柳井駅北側の**振興**について伺います。

市の回答

金魚ちょうちんは、和紙等で作られており、天候に耐えられない。電飾は電源の確保等が難しく、柳井の夏の風物詩といった面からも常設化は厳しい。花火については、安全の確保や会場から一望できるといった条件を満たす場所がない。



下村の意見

軒下以外の屋外についてはポリエステル製の金魚ちょうちんも活用すべきと考えます。また、金魚ちょうちん祭り際には柳井駅北側に幅広く電飾がされています。**電飾のLED化により電気代の大幅な軽減**が想定され、夏のみならず様々な表情の金魚ちょうちんをイベント等に合わせて装飾し、企業の協賛を募るなどの工夫しながら金魚ちょうちんの点灯を常設化することは十分可能と考えます。**InstagramなどのSNSの活用により白壁の町並みや飲食店街への誘客も目指し、賑わいや経済活性化の一助**とします。

お祭りに合わせた打ち上げ花火に関しては、花火の尺を変化させつつ、例えば県道柳井上関線(県道72号)の一部を一定時間封鎖すれば、旧道使用により車の往来がストップすることもなく打ち上げが可能と考えられます。